

日南町森林組合 入澤 宏様

平成23年12月18日の日本海新聞の一面に「記録的大雨情報」100回と見出しにあり、内容は数年に1度程度しか発生しない、1時間に100ミリなどの大雨が観測された地域を対象に出る「記録的短時間大雨情報」の発表回数、豪雨災害の相次いだ今年、全国で100回に達したことが17日、気象庁のまとめで分かった。同年12月16日の読売新聞の一面に、高齢化の波都市部にも。鳥取・日南「日本の30年後」と見出しにあり、内容は、東日本大震災と、その後の復旧・復興の過程で見えてきた課題の多くは、日本列島全体に共通する。少子高齢化の中、(略)日本の活力を取り戻すための国土の再生について考える連載「列島再生」のプロローグとして、日本の近未来を映す地域を訪ねてみた。(略)中国山地のほぼ中央にある鳥取県日南町。65歳以上の高齢者の割合が、全国平均で2035年に34%、2055年に41%とみられる中、すでに45%に達する同町は、「30年後の日本の姿」を自認する。(略)高齢化の波は、都市部にも急速に押し寄せている。

さて、日本の国土の3分の2は山林・原野、日南町においても面積の90%は山林・原野であり、その取扱いは大切であり、只今「日本林業の再生プラン」が進んでいる。

○戦後林業低速の過程

1. 丸太の自由化と自給率の急落 2. 林業基本法と構造改革業の失敗 3. プラザ合意以降の価格急落

○林業再生への現況

1. 国内森林資源の充実 2. 合板メーカーの国産材への回帰 3. 地球温暖化対策の国際公約

○日本林業再生の課題 - 外材に伍する競争力を有する持続可能な林業の確立 -

1. 高性能林業機械と高密度路線による低コスト化 2. 施業集約化による零細構造の打破

- 森林組合を中枢とした施業の共同化 - 3. 外材に負けない安定供給体制の確立

○林業再生の取組

1. 森林を支える人材の育成確保 2. 林業事業者の育成・強化 3. 国(県)産材の流通・利用拡大

○地球温暖化対策

1. 森林による炭素固定1300万トン 2. 毎年55万HAの間伐実施

上記を柱に、今日日南(日野川)林業再生に向け取り組んでおり、ご理解と、ご支援により早期実現を願っています。

ミニチュアツリーハウス制作ワークショップ

昨年末、12月27日、日南町美術館の行事「あそ美クラブ」が開催され、そのイベントのひとつとして、子ども達のミニチュアツリーハウス制作ワークショップが行われた。

当NPO法人も資材・材料調達、指導など手伝い、子ども達と一緒に制作を行った。日南町文化センター多目的ホールに、ブルーシート等を敷き、ホストツリーになる枝木、作品の雰囲気作りするコケ、わらなど、(株)オロチの協力で、土台になる端材などを持ち込んだ。

参加した子ども達は小学生40数名。なかには帰省中の他小学校の子どもも飛び入り参加。

子ども達は、日本ツリーハウス協会の指導者から、ツリーハウスとは？と、スライドで説明を受け、イメージをふくらませた後、それぞれ、材料を探しながら組み立てていった。高学年は自分でもって来たボタンなどの材料を取り付けるなど工夫を凝らし、できあがった作品は、ひとつとして同じものが無く、個性的な作品であった。一部は役場ホールに展示された。

